

米国がベトナムへの果実・野菜の輸出を促進

[FreshPlaza](#) 2025年9月3日

米国大使館及び米国農務省対外農業局ハノイ事務所は、MMメガマーケットベトナム社と協力し、両国の外交関係樹立30周年を記念するとともに米国の農産物を宣伝する「繁栄するアメリカの農場から」キャンペーンを7月23日に開始した。

駐ベトナム米国大使のマーク・ナッパ氏は、「ベトナムは米国農産物の重要な輸出市場であり、ベトナムの消費者に提供する食品の品質及び安全性に大きな誇りを持っている」と述べた。

この販促キャンペーンでは、サクランボ、リンゴ、ブドウ、ブルーベリー、モモ、ネクタリン、ジャガイモ、レーズン、プルーン、ナツメヤシの実、トウモロコシの缶詰、アーモンド、クルミ、ピスタチオ等、80以上の米国製品を取り上げている。テーマ展示は7月23日から8月6日まで開催される。この立ち上げには、ポテトUSA、カリフォルニア州生食用ブドウ委員会、カリフォルニア州生鮮果実協会、カリフォルニア州プルーン委員会、ワシントン州リンゴ委員会、北西部サクランボ生産者協会、米国ハイブッシュブルーベリー協議会等、14の米国農務省協力団体が参加した。

ナッパ大使は、ベトナムが最近米国産のネクタリンに市場を開放したところであり、両国は関税問題及び持続可能な農業プロジェクトにおいて協力していると指摘した。米国大使館のラルフ・ビーン農業参事官は、「両国は食品中の残留農薬制限などの問題について政府間レベルで多くの意見交換を行っており、米国はベトナムの食品関連法制度の強化を支援してきた」と述べた。同氏は、協力が流通、物流、コールドチェーン管理にも及ぶと補足した。

6月には、ベトナム農業環境省(MAE)の代表団がアイオワ州、オハイオ州及びワシントンD.C.を訪問し、14億米ドル以上の動物飼料原料、肥料、農薬、果実、原木の輸入及び技術移転協力に関する合意書に署名した。

MAEによると、2025年の最初の5カ月間で、米国はベトナムへの農林水産物の第3位の供給国であり、市場シェアは8.2%、成長率は5.4%であった。米国はまた、今年上半期のベトナムの農林水産業の最大の輸出市場であり、シェアは21.1%、成長率は16%であった。2024年の米国からベトナムへの消費者向け農産物輸出額は11億米ドルに達した。

ドナルド・トランプ米大統領は7月2日、ベトナムの対米輸出品に20%、再輸出品に40%の関税を課す貿易協定を発表した。7月3日のMAEの記者会見では、当局者が10%、20%、46%の相互関税の3つのシナリオを概説し、輸出の潜在的な損失は62億米ドルから123億米ドルに及ぶとした。ベトナムの輸出業者らは業界団体と協力して動向を監視し、対応を準備している。

出典: VnEconomy